

平成23年11月2日
新潟国際情報大学

FD活動の 国内外の動向とその意義

加藤かおり

新潟大学・教育学生支援機構
大学教育機能開発センター・准教授

本日の構成

1. FDとは何かについての確認
2. イギリスの事例
3. 日本の動向
4. FDの意義(と成果)

1. FD (ファカルティ・ディベロプメント) とは何か？

日本におけるFDの由来

- 1990年代に、主に高等教育の研究者によって紹介された、アメリカの「大学教員研修」
- 日本では、「大学教授集団の教育改善、教育力向上の取り組み」として定着。
- 「教授集団」としながら、実質的には、個人のティーチングの「自主的」改善に集中。



現在、本家のアメリカ、同じく先進国のイギリスなどでは、「FD」は使われていない。

近年の欧米では・・・

●教員個人のキャリア開発

- Professional Development(PD)
- Continuing PD
- (Academic)Staff Development

●教育プログラム・システム・組織の開発

- Educational Development
- Organizational Development

広義のFD(教育開発)の全体像

FD

(教育力向上の取り組み)

(1) 教員の教育職能の開発
(個人的な局面)

教育・学習のデザイン、
教育・学習の実践、
学習コミュニティへの参画、
教育改善・自己改善

(2) 教育プロセスの開発
(部局など教育単位の局面)

各専攻プログラムの設計および
管理運営、
プログラムとしての教育方法
の開発

(3) 教育体制、ポリシーの開発
(全学的な局面)

大学の教育理念・教育目標の設定、
FD戦略(方針)の設計、
学士課程教育の学習支援システム
づくり、および学習環境の整備

教育開発の目的・ゴール

★「学生の学習」を中心においた大学教育の実現(学習者中心の教育)

- ①学生自身が自分の学習の主体となるよう、支援する教育
- ②学生の「学習(理解)」がいかにして深まるのか、についての理論やモデルを基礎にしたティーチング

2. イギリスの事例

(1) 教員の教育職能開発

イギリスモデルの意義

イギリスは、

- 「(自律的)教育実践家」としての大学教員のプロフェッショナル化が国家レベルで進んでいる。
- このプロフェッショナル化の基盤となるコンテンツについて圧倒的な蓄積がある。
- 欧州において国際化が進む(英語での授業実践を行う)他の国を牽引している。

大学教育のプロフェッショナル化

「教育プロフェッショナルの認定」

(professional recognition of teaching in HE)により、
教員が自ら能力証明を行う。(仕組み)

●その基本方針

- ・イギリスは大学教員についての国家資格制度を持たない。
- ・大学教員は専門職業として認識されている。
大学教員は、各機関に雇用されている自律的な専門職業人として、自ら能力や資質の証明を行うということが基本姿勢

●経緯

- 1997年の国家調査委員会による『学習社会における高等教育(通称デアリング報告書)』(NCIHE 1997)において、「フルタイムの新任教員は、ILTHeの準会員資格を取得する」(48項)ことが勧告された。
- 2003年の高等教育白書「高等教育の未来(The Future of Higher Education)」において、全英レベルの高等教育におけるティーチングのプロフェッショナルの基準を作成すること、その基準をかなえる教育の資格(teaching qualification)を2006年以降全ての新任教員が取得すること(4.14項)が提言された。
- SEDA(Staff and Educational Development Association)を中心に教員の自主的な活動として行われていた高等教育における教育プロフェッショナルの認定が、その後教育職能開発の専門機関として設立された高等教育アカデミー(Higher Education Academy, HEA)を中心に全英レベルで実施されるように。

教育プロフェッショナル認定

(professional recognition of teaching in HE)

1) 認定の運営機関

高等教育アカデミー(HEA)

2) 認定の基準枠組み

The UKPSF (The UK Professional Standards Framework for teaching and supporting learning in HE)

●認定の方法(選択肢)(仕組み)

(1)エビデンスに基づく個人申請

(2)所属機関等が提供する修了証明を取得する
高等教育資格課程(PG Certificate in Higher
Education, 以下PG Certificate)の修了を
もって機関から申請

(3)全英フェロー(National Fellowship Scheme,
NSF)の受賞をもって申請

→現時点では、新任教員の仮採用期間に(2)
の方法で行われるのが最もポピュラー。

●The UKPSFの特徴

- (1)教育のプロフェッショナルを3つのキャリア段階にわけて、その証明できる活動や能力の範囲とそのキャリア段階に相当するスタッフの例を提示した「キャリア段階の基準記述 (Standard descriptor)」
- (2)教育のプロフェッショナルとしての「全体的な活動領域、コアとなる知識、プロフェッショナルな価値観」の3つの領域を提示した枠組みの2つの枠組みによって構成

●機関における運用

- ・ 2006年以降採用される新任教員に対して、最初の3年から5年の試用期間(probation)に、所属機関が提供するPG Certificateのプログラムを修了することを義務づけるようになった。
- ・ PG Certificateのプログラムについては、すでにそれ以前から新任教員を対象に同様のプログラムを提供している機関もあった。
→2006年以降すべてのそれらの教育プログラムはthe UKPSFを基準にHEAによって認証されるプログラムとなった。

機関、国にとっての意義＝教育力の質の保証

機関側：認証されたプログラムの修了を仮採用中の
新任教員に義務づけ
＝少なくとも新任教員の教育資格もしくは
教育能力の証明を組織的に行っている
という説明。

同時に国として：

プログラムの認証を国レベルの教育職能基準
(the UK PSF)を用いて実施していることで、
国家としての質の保証を担保する。

イギリスの事例

(2) 教育開発

局面ごとの開発の方向性

①教育体制

→「学生(学習者)」中心の体制へ

②教育プログラム・授業

→学習目標/成果(Learning Outcomes)、
ティーチング/学習の方法、
成績評価方法に一貫性のあるデザイン

背景

1. 社会の変化

(1) 生涯学習社会

(2) 知識(基盤)社会

2. 高等教育の変化

(1) 入学者の拡大

(2) 教育機能の多様化

(3) 第3の教育の位置付け

日本の動向

政策面での動向

●FDの法的義務化

平成19年から、大学院教育で

平成20年から、学士課程教育で

●H20中教審答申「学士課程|教育の構築に向けて」

①3つのポリシーに貫かれた学士課程教育

②学習目標到達型のプログラム化

③汎用的能力を含めた学習成果の「学士力」

④アクティブラーニングなどの推奨

機関レベルの動向

- 地域別の全国「FD拠点」の設置
東北大、名古屋大、京都大、愛媛大など
- 「新任教員研修」実施機関の増加
県内でも、長岡技大、新潟工科大、
新潟医療福祉大、新潟大
- 「学生による授業評価アンケート」だけでなく、
「授業観察(または授業公開)」のピア評価も
- 初年次教育などでの「学習スキル」習得

FDの意義(と成果)

全体的な意義

- 第3の教育になりつつある現代において、大学教育に求められている機能はなにかを再確認し、その実現に向かう。
 - 同時に、「高等」な教育、アカデミックな学習の意味を探究する。
- 少なくとも10年前より「教育」についての議論が活発になっている。(1つの成果)

立場ごとの意義（機能すれば）

(1) 教員にとって

自身の能力の向上、
職務としての「教育活動」の地位の向上、
教育業績の認知（研究業績とのバランス）。

(2) 大学にとって

「研修」はやり方によって、教員集団や組織の
結束、コミュニティづくりの場にできる。
一部の私立大では、FDは「教育熱心」の
アピールに。

(3) 学生にとって

「学習者中心の教育」への転換により

自らを学習の中心とした自律的な学習者、
知識創造の担い手としてポジティブ、かつ
主体的な学習者に。

→生涯学習者の基礎を身につけられる。

★ただし、FDを機能させるための、

①取り組み方

②「教育重視」の雰囲気や大学文化をつくる
マネジメント&リーダーシップが重要。

以上です。

なお、英国の事例については、次の科研費助成の成果を用いています。

・科学研究費補助金・基盤研究(C)

(平成17年～18年度課題番号:17530558)

「英国高等教育資格課程における専門キャリア開発の基準と構造に関する研究」研究代表者 加藤かおり

・科学研究費補助金・基盤研究(C)

(平成20年度～22年度課題番号:20530724)

「英国における大学教員のキャリア計画と専門職能開発の構造」研究代表者 加藤かおり

・科学研究費補助金・基盤研究(C)

(平成23年度～25年度課題番号23531049)

「欧州における大学教育のプロフェッショナル認定の仕組みと機能」研究代表者 加藤かおり